

泉区制 40 周年記念

第29回 横浜いずみ歌舞伎公演



【日時】令和8年 10月 17日 (土)、18日 (日)

13時開演 (12時30分開場)

【会場】泉公会堂 相鉄いずみ野線「いずみ中央駅」徒歩5分

【入場料】1,500円 (全席自由席) 9月1日販売開始

【チケット販売】泉区役所1階売店、泉区内各地区センター、泉公会堂

【演目】

『梅雨小袖昔八丈』 (つゆこそでむかしはちじょう)

—— 髪結新三 (かみゆいしんざ) ——

舞踊 『藤娘』 (ふじむすめ)



【ホームページ】

【主催】横浜いずみ歌舞伎保存会 【共催】泉伝統文化保存会 泉区役所

【問合せ】泉区地域振興課区民事業担当 電話: 045-800-2392



作品介绍

『梅雨小袖昔八丈 —髪結新三—』

江戸・新材木町の材木商白子屋では、家運を立て直すため、娘のお熊に持参金付きの婿を迎える話が進められています。しかし、お熊は店の手代・忠七と恋仲でした。

二人の悩みを知ったのは、白子屋に出入りする廻り髪結いの新三です。粋で男前ながら、裏では悪知恵に長けた小悪党でもある新三は、「駆け落ちの力になります」と巧みに二人を誘います。ところが、その言葉の裏には別の企みがありました。新三はお熊を連れ去り、忠七を欺いて追い払ってしまいます。

お熊を取り戻そうとする白子屋の人々や侠客・弥太五郎源七、そして新三の住む長屋の大家・長兵衛。それぞれの思惑が交錯するなか、新三はさらに一枚上手の長兵衛との駆け引きに巻き込まれ、事態は思わぬ方向へと動いていきます。

梅雨どきの江戸を舞台に、人情と駆け引き、粋な啖呵と洒脱な会話が織りなす『髪結新三』。河竹黙阿弥が描く江戸情緒あふれる名作をお楽しみください。

『藤娘』

満開の藤の花が咲き誇るなか、藤の花の精が可憐な娘の姿となって現れます。娘は恋しい人への募る想いや、叶わぬ恋の切なさ、時にはすねるような愛らしさを、優美な舞に託して表現します。

笠や藤の枝を手に舞うしとやかな姿、お酒に酔いながら恋心を描く華やかな踊りなどを通して、揺れ動く女心が情感豊かに映し出されます。物語を追うというよりも、舞踊と音楽が織りなす美しさを味わうことのできる作品です。

やがて夕暮れが訪れると、娘は名残を惜しむように舞いながら姿を消していきます。優雅な舞と詩情あふれる世界観で親しまれる、歌舞伎舞踊を代表する名作です。

